

番号	6		事業名	河川(治水ダム)事業		市町村名	長野市		路河川名	(一)浅川	箇所名(ふりがな)	一ノ瀬(いちのせ)		
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	○浅川は、古くからたびたび水害が発生し、下流住民から抜本的な治水対策が求められていたが、浅川沿川は、宅地化が進み、河川改修のみによる治水対策では、地元の負担が大きくなることから、浅川ダムと河川改修の組み合わせによる治水対策とした。 ○昭和52年に多目的ダム建設事業に着手した後、平成15年12月の長野県公共事業評価監視委員会から多目的ダム建設事業中止の意見書が提出された。 ○治水専用ダムとして計画の見直しを行い、平成19年8月に河川整備計画の認可、平成20年3月にダム全体計画が認可された。ダム建設を進め、平成24年度に事業の再評価において継続評価を受け、平成29年3月に完成している。												事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価
	○ダム本体工事の着手前に環境影響評価を実施した。 ○工事期間中は、ダム本体や隣接の残土処分場等において大規模な地形改変がおこなわれたため、環境に大きな影響を与えないよう、保護すべき貴重種等について、最小限の影響に留めるよう施工した。 ○工事完了後、フォローアップの環境調査を5年間継続して実施し、鳥類(猛禽類)、魚類、底生生物等の回復が確認されている。 ○ダム完成後、地元住民と協働して、貯水池内の平地に水仙や菜の花、フジバカマを植栽した。また、フジバカマには、渡り蝶であるアサギマダラが多数飛来してきており、新たな自然環境を創設した。												A	
事業目的	○本事業は、河川改修と併せ、100年に1回程度の確率で発生すると予想される降雨による洪水から、長野市街地を守る計画である。												施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価
事業概要	当初工期	S52~H28	費用対効果(当初時) <small>(治水専用ダム変更後)</small>	4.07	事業費(千円)	財源内訳(千円)						③施設の維持管理状況	A	
	最終工期	S52~H28	費用対効果(評価時)	4.20	<small>上段:当初(治水専用ダム変更後) 下段:最終</small>	国庫	その他	県債	一般財源					
	当初計画内容 <small>(主な工種) (治水専用ダム変更後)</small>	重力式コンクリートダム 堤高 53.0m 堤頂長 L=165.0m 堤体積 V=166,000m <sup>3</sup> 総貯水量V=1,100,000m <sup>3</sup>				38,000,000	19,000,000	561,762	17,100,000	1,900,000	④地域住民等の評価	A		
	最終事業実績 <small>(主な工種)</small>	重力式コンクリートダム 堤高 53.0m 堤頂長 L=165.0m 堤体積 V=141,000m <sup>3</sup> 総貯水量V=1,100,000m <sup>3</sup>				34,644,273	17,210,148	561,762	16,802,363	70,000				
事業期間の延長、短縮理由と分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和60年度 多目的ダム建設採択(総事業費12,500百万円)</li> <li>・平成10年度 長野県公共事業評価監視委員会から多目的ダム建設事業継続の意見書が提出(総事業費33,000百万円)</li> <li>・平成15年度 長野県公共事業評価監視委員会から多目的ダム建設事業中止の意見書が提出(総事業費40,000百万円)</li> <li>・平成19年度 河川整備計画が認可をもって、再評価の手続きが行われたものとして位置づける(総事業費38,000百万円)</li> <li>・平成24年度 長野県公共事業評価監視委員会から多目的ダム建設事業継続の意見書が提出</li> </ul>												改善措置の必要性	なし
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	○左岸側ダム軸の変更に伴う堤体積の減による減額 ○入札差金による減額													
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成)										評価	A		
	直接的効果 <small>(定量的・定性的)</small>										今後の取り組み及び同種事業への活用と課題			
	間接的効果 <small>(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況</small>										建設部公共事業評価委員会の意見	ダム建設により、下流にある保全対象の安全が確保され、地域住民の評価も高い。また、地元小学校の生徒がダム見学をとおして、ダムの機能や効果を学んでおり、防災学習の場としても活用されていることから、総合評価Aが妥当と判断する。	総合評価	A
										長野県公共事業評価委員会の意見	建設部公共事業評価委員会の意見を妥当と判断する。	県の評価案	妥当	
												評価監視委員会意見	妥当	
												評価の決定	A	

番号	6	事業名	河川(治水ダム)事業	市町村名	長野市	路河川名	(一)浅川	箇所名(ふりがな)	一ノ瀬(いちのせ)
----	---	-----	------------	------	-----	------	-------	-----------	-----------

位置図

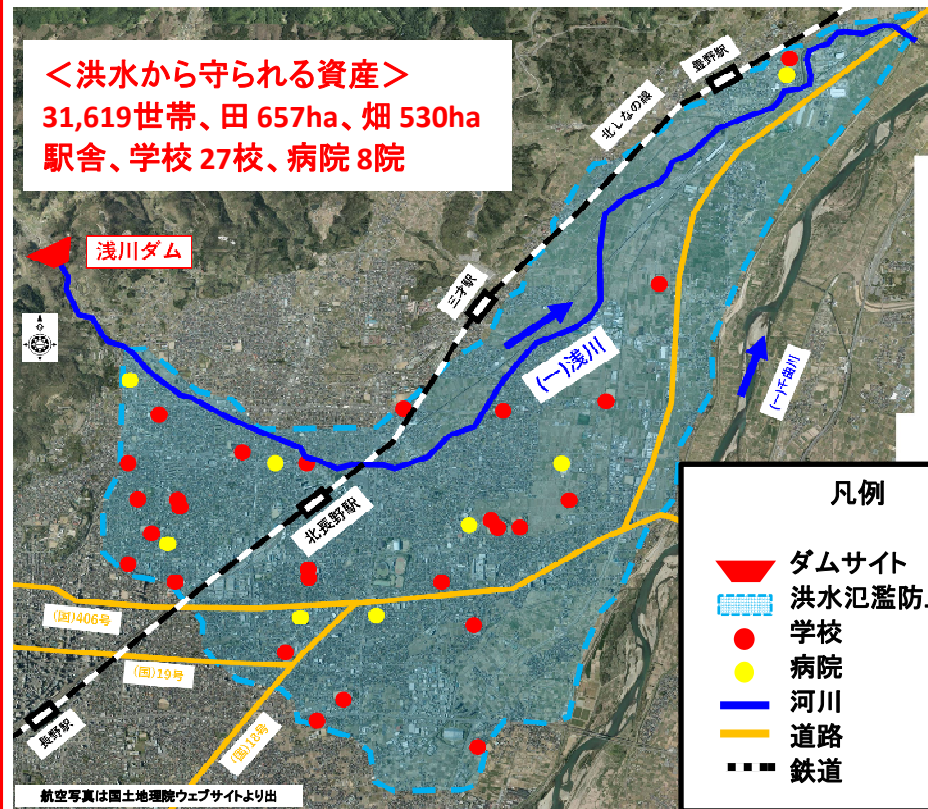


直接的な効果

浅川ダムの完成により、年超過確率1/100規模の外水氾濫を防止。

<洪水から守られる資産>

31,619世帯、田 657ha、畑 530ha  
駅舎、学校 27校、病院 8院

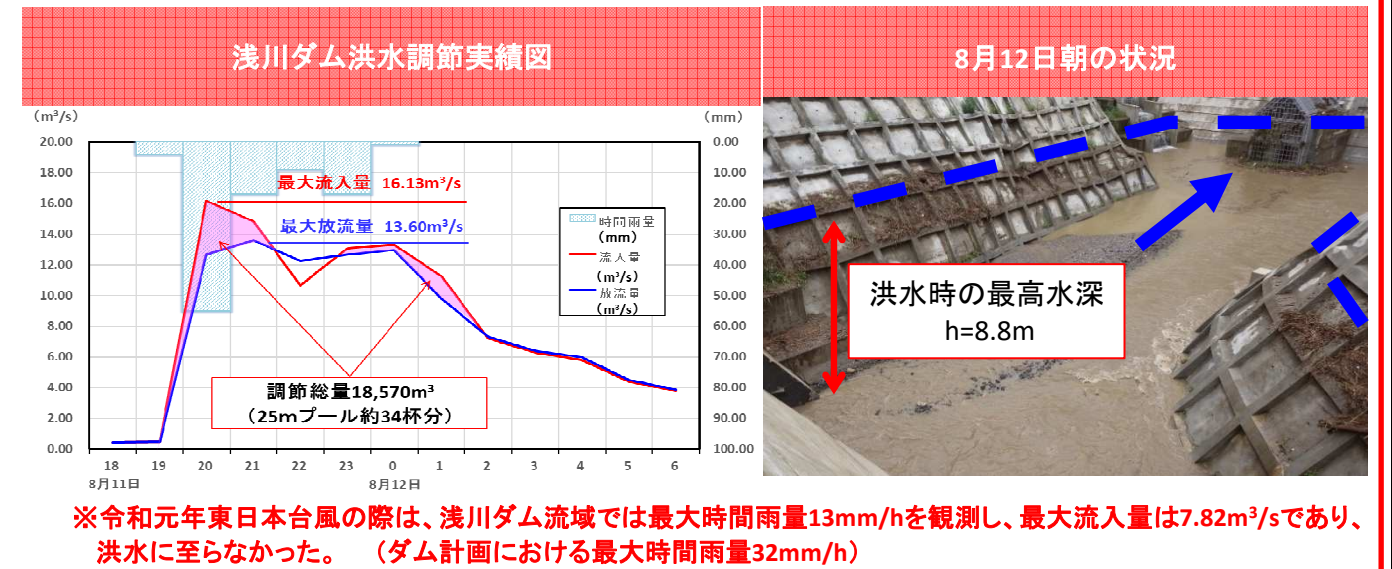


**凡例**

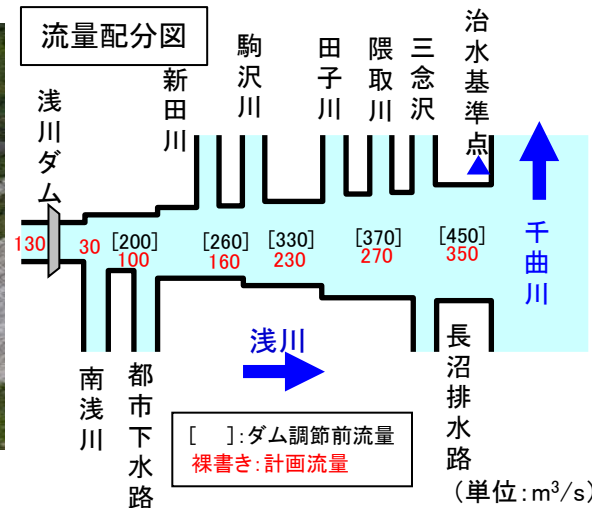
- ▲ ダムサイト
- 洪水氾濫防止区域
- 学校
- 病院
- 河川
- 道路
- 鉄道

<洪水調節の実績>

- ・平成29年8月11~12日において、ダム完成後、最も多い時間雨量と出水を観測しており、浅川ダムで洪水調節を行っている。
- ・最大流入量16.13m<sup>3</sup>/sに対して最大放流量は13.60m<sup>3</sup>/sであり、調節総量18,570m<sup>3</sup>(25mプール約34杯分)をダムに貯留することで、洪水調節基準点(千曲川合流点)で5cmの水位低減効果があった。

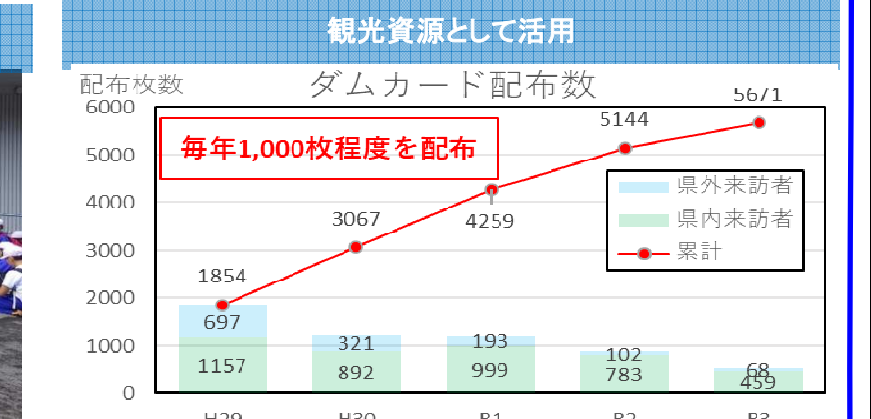


全景写真



間接的な効果

事業の主たる目的以外で地域社会への貢献や生活環境への効果があった。



平面図

